横手 2017年4月24日

大雄小学校でホップのカーテンづくり！

秋田県横手市日本でも屈指のホップ栽培地であり、キリンとも46年の契約栽培の歴史があります。しかし、現在ホップ生産者の高齢化や後継者不足により、ホップの生産量は日々減少し、地域資源衰退の危機に直面しています。
そこで、横手市および大雄ホップ農業協同組合とキリンは、横手の伝統である作物「ホップ」を守るため、ホップ生産量を維持する活動を協働で行っています！
その活動の一環として、横手市の農業の魅力を地元の小学生に知ってもらい、横手大雄産ホップを地元の誇りに感じてもらえるよう、横手市立大雄小学校の児童の皆さんと一緒に、横手大雄産ホップを使ったグリーンカーテンをつくる活動を開催しました。
まずは、小学校4年生から6年生の100名にランチルームに集まってもらい、ホップに加え、横手市の重点振興作物「アスパラガス」や、地域に根付く食文化である「麹」について生産者の方より直接お話しいただき、横手市の農業や食文化に触れてもらうイベントを開催しました。

その後、小学校4年生と一緒に外に移動し、横手市のホップ農家さんにもご協力いただきながら、ホップの苗植え作業を行いました。子ども達は目をキラキラさせながら生産者さんのお話を聞き、そして初めて見るホップの苗に驚きながら植栽に取り組んでいました。児童のみなさんは小学校の正面玄関横に植えられたホップを毎日見ながら登校し、グリーンカーテンができるまで観察を続けていくようです！